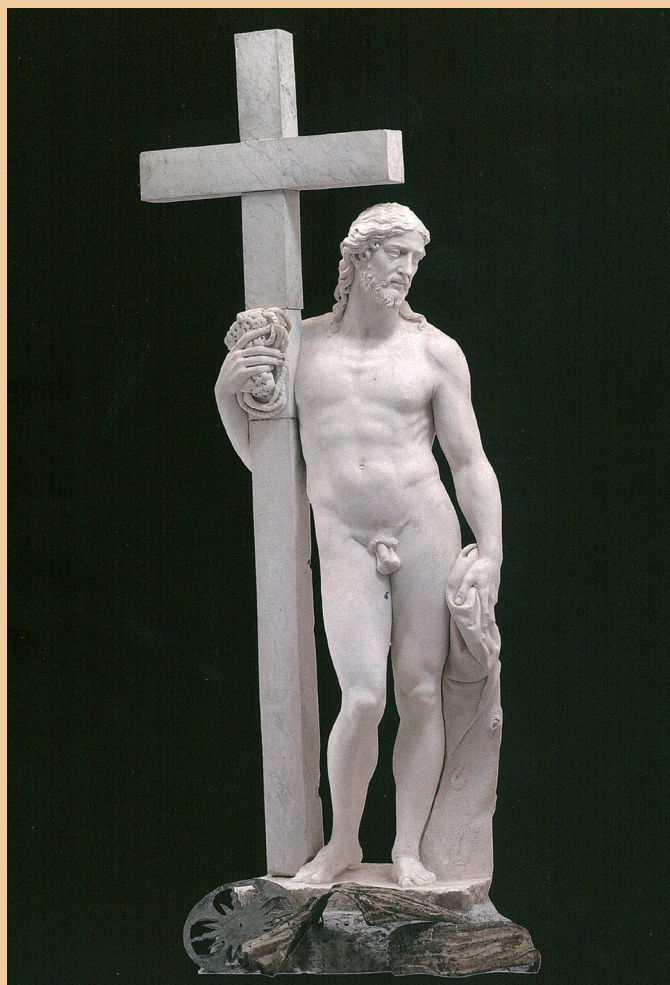




十字架を持つキリスト (ジュスティニアナーニのキリスト)

ミケランジェロ・ブオナローティ 1514-16年頃

(未完作品、17世紀の彫刻家の手で完成)

サン・ヴィンチェンツォ修道院付属聖堂

©Associazione Culturale Metamorfosi

高さ(キリスト像だけで) 2.1m 大理石

ミケランジェロがローマの貴族の注文により制作を始めた彫像ですが、顔の部分に黒い疵が現れたために制作途中で放棄されてしまいました。その後、長く行方不明となっていました。2000年にローマ郊外の小都市バッサーノ・ロマーノにある修道院に納められているキリスト像が、ミケランジェロによって手がけられた本作品であることが明らかとなりました。日本初公開の作品です。

(特別展「レオナルド×ミケランジェロ展」で展示)

特別展

レオナルド× ミケランジェロ展

2017.10.5(木)~11.23(木・祝)

ルネサンス美術の二大巨匠、レオナルド・ダ・ヴィンチとミケランジェロ。二人の芸術家を、その力量を示すうえで最も重要とされ、すべての創造の源である「素描」に焦点を当て対比する、日本で初めての展覧会です。

レオナルド・ダ・ヴィンチ（1452-1519）とミケランジェロ・ブオナローティ（1475-1564）は、レオナルドが23歳年上ですが、「宿命のライバル」といわれます。フィレンツェ・ヴェッキオ宮殿の壁画での競作や、芸術に対する考え方の違いによる対立など、二人がお互いを強く意識していたことが知られています。

この展覧会では、素描のほかに、油彩画、手稿、書簡、彫像など、フィレンツェ カーサ・ブオナローティやトリノ王立図書館所蔵品を中心におよそ70点の作品から、「顔貌」「絵画と彫刻のパラゴネ（イタリア語で「比較」）」「人体表現」「馬と建築」など6つのテーマに沿って、二人の芸術の魅力に迫ります。



レオナルド・ダ・ヴィンチ《自画像》
(ファクシミリ版)
1515-17年頃 トリノ王立図書館
©Torino, Biblioteca Reale

「素描」は、作品の制作過程を示すと同時に、弟子にとってはお手本であり、さらに、芸術家が人間や自然をどのように捉えていたのか、その考えを表すものとして高く評価されています。展覧会では、レオナルドとミケランジェロ自身の手による素描30点以上を展示します。



マルチェッロ・ヴェヌスチ（帰属）
《ミケランジェロの肖像》
1535年以降 カーサ・ブオナローティ
©Associazione Culturale
Metamorfosi and Fondazione
Casa Buonarroti



レオナルド・ダ・ヴィンチ《馬の後脚の習作》(トリヴルツィオ騎馬像)
1508年頃 トリノ王立図書館
©Torino, Biblioteca Reale

「素描家よ、君がりっぱで有益な修行をしたいと思うなら、じっくりと素描するようにせよ。」「画家は、まず優れた師匠の手になる素描を模写することに習熟しなければならない。」

—レオナルド・
ダ・ヴィンチ



ミケランジェロ・ブオナローティ
《トルソと脚の習作》
1524-25年 カーサ・ブオナローティ
©Associazione Culturale Metamorfosi
and Fondazione Casa Buonarroti

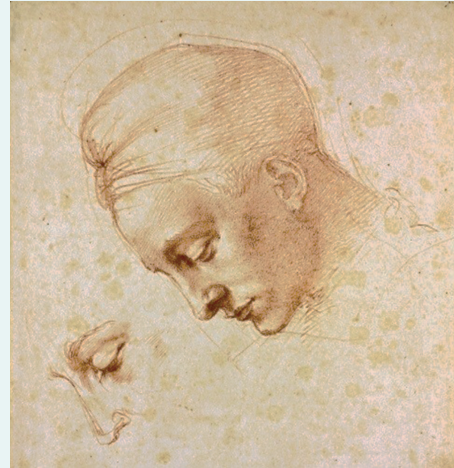
(弟子のアントニオに)「毎日デッサンしなさい」 —ミケランジェロ

2 人の技法の違いにも注目！

左利きのレオナルドは、左上から右下へのハッチング（平行線を重ねて陰影を表現する技法）が特徴的です。ミケランジェロは、右利きでクロスハッチングと呼ばれる、斜線を交差させ、あたかも『削り取るように』素描を描いていました。



レオナルド・ダ・ヴィンチ
《少女の頭部／〈岩窟の聖母〉の天使のための習作》
1483-85年頃 トリノ王立図書館
©Torino, Biblioteca Reale



ミケランジェロ・ブオナローティ
《〈レダと白鳥〉の頭部のための習作》（部分）
1530年頃 カーサ・ブオナローティ
©Associazione Culturale Metamorfosi
and Fondazione Casa Buonarroti

絵画が上か彫刻が上か

当時、彫刻と絵画のどちらがより優れた芸術であるかを論じあう「比較芸術論争」が行われていました。レオナルドは、「平らなものを立体に見せるという技量…画家はこの点で彫刻家を凌駕している。

（中略）画家の描く立体は、自分の技量によって手に入れたものであるから、驚嘆されるのである。」と述べています。一方ミケランジェロは、「画家は絵画よりも彫刻をおろそかにしてはいけなし、彫刻家は彫刻よりも絵画をおろそかにしてはならないと述べ、」絵画を劣ったものとは見ていません。



レオナルド・ダ・ヴィンチに基づく
《聖アンナと聖母子》
1501-20年頃 ウフィツィ美術館
©Firenze, Gallerie degli Uffizi, Gabinetto
fotografico delle degli Uffizi



ミケランジェロ・ブオナローティ 《河神》
1525年頃 カーサ・ブオナローティ
©Associazione Culturale Metamorfosi and Fondazione
Casa Buonarroti

加藤栄三・東一記念美術館

第1展示室 加藤栄三・東一 イタリアの情景

2017.9.26(火)~12.10(日)

昭和42年、加藤栄三は長女：美耶子、栄三に師事していた日本画家の石川響らとともに、主にイタリアを巡る約50日間の写生旅行に出かけ、ローマ、ペルーシア、フィレンツェ、アッシジなどの古い街を中心に遍歴しました。

その年、第10回新日展において、アッシジのサン・フランチェスコ寺院を題材にした「星空」を、翌年の第11回新日展に「フィレンツェの夜明け」を発表しました。

加藤東一も昭和38年、盟友の日本画家：大山忠作とギリシャ、イタリア、エジプトなど7か国を巡る海外旅行に出かけています。

栄三は旅についてこう語っています。

「旅こそはわが修業の一端だとかんがえているわたしにとって、その旅が昨今のように味気なくなると、なんだか旅に出るのがいささかおっくうになる。といってもわたしたちの仕事は単に画室にこもって、一步も内外にでないというわけにはいかない。旅をたずねる気持ちが、あるときは自然への深い憧れがあったり、あるいは花のとき、あるいは各地の雪の便りをきけば、それをみたいとおもい、いそいそと旅に出かけます。」

本展では二人が旅したときに現地で取材し描いた素描と、帰国後に発表した本画を展示します。



栄三「フィレンツェの夜明け」

加藤栄三・東一記念美術館

第2展示室 信長公岐阜入城・岐阜命名450年に寄せて 伊藤髭耳とはっ・とびの仲間たち

2017.10.24(火)~12.10(日)

平成23年10月、日本美術院同人：伊藤髭耳先生主宰の日本画研究グループ「はっ・とび」の創立10周年を記念しての展覧会が岐阜で開催されました。その縁あって、今年の「信長公450プロジェクト」に協賛して信長を題材にした作品を岐阜で発表していただくことになりました。

「はっ・とび」とは“はっ”という意気込みを表した掛け声で、今の自分から一段上に飛びたいという気持ちを表したものです。ゆっくりではありますが、自分の目と手を使い写生を繰り返すことで見えてくるものを絵にして来ました。題材から教えてもら

い、題材を大切にしながら制作を続ける姿勢は、今も一貫して行われています。

本展覧会では「はっ・とび」メンバーが描いた信長をとおして、現代日本画の一断面をご紹介します。



伊藤髭耳「金華山」(部分)

博物館ニュース

小和田哲男名誉館長図書コーナーを開設しました

今年の4月に「岐阜市信長公450プロジェクト」を契機として、織田信長研究において造詣が深く、戦国時代史研究の第一人者である、小和田哲男静岡大学名誉教授が当館名誉館長に就任しました。

名誉館長就任を記念して、名誉館長の等身大パネルと総合展示室2F 戦国立体図鑑内の図書コーナーに「小和田哲男名誉館長図書コーナー」を設置しました。当図書コーナーでは、名誉館長より寄贈された図書をはじめ、戦国時代を中心とした研究書・新書・雑誌など、100冊程の本を置いてあります。また名誉館長の等身大パネルと一緒に写真を撮っていただけます。

お立ち寄りの際には、是非ご利用ください。



■分館 加藤栄三・東一記念美術館の展示■

本誌4ページで紹介した以外の分館展示会は以下の通りです。

- 9月26日（火）～10月22日（日） 松井 章・坪内節太郎 二人展
12月12日（火）～4月22日（日） 制作の舞台裏から本画へつづる 所蔵作品展
12月12日（火）～3月4日（日） メルヘンとロマンティズム 野田龍二の世界

■特集展示（2階 総合展示内）■

2階の総合展示の一角に特集展示室を設置し、1～2ヵ月ごとにテーマを設けて資料を公開しています。これからの日程は次のとおりです。

- 9月22日（金）～12月3日（日） くらしの道具たち～戦前の家のなか～
12月8日（金）～3月11日（日） 年中行事～受けつがれる祭り～

■分室 原三溪記念室の展示■

- 10月7日（土）～11月24日（金） 濃尾地震と三溪
11月25日（土）～12月27日（水） 加納鉄哉～三溪のコレクションの師匠～

上記の日程は、都合により変更する場合もございます。ご了承ください。

研究ノート

岐阜市歴史博物館蔵

「賤ヶ岳合戦図屏風」雑考（後）

中島雄彦

※本稿は『博物館だより』No.94に掲載した同題前編の続編である。

※大阪城天守閣蔵「賤ヶ岳合戦図屏風」・岐阜市歴史博物館蔵「賤ヶ岳合戦図屏風」をそれぞれ大阪城本・岐阜歴本と略記した。大阪城本・岐阜歴本の画像については、それぞれ【挿図大－番号】・【挿図岐－番号】と表記した。

※大阪城本の画像については大阪城天守閣より提供を受けた。ご協力いただいた関係各位に深謝申し上げます。

2. 大阪城本右隻

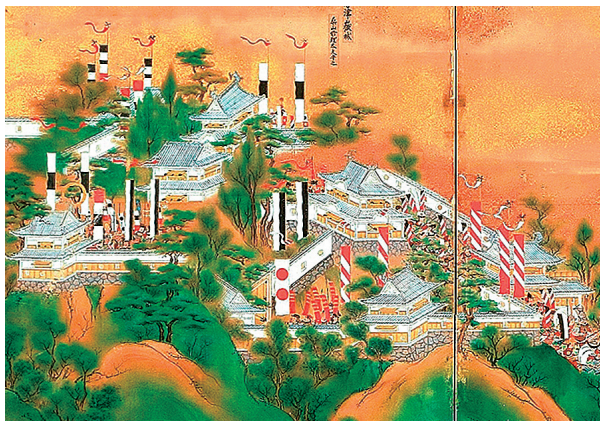
では次に、大阪城本右隻との比較をおこなってみよう。大阪城本右隻に描かれた合戦は天正11年（1583）4月21日の戦いで、美濃から急遽戻った羽柴秀吉が賤ヶ岳砦に陣取り、柴田勝家勢を越前へと追いやる様子が描かれている。岐阜歴本右隻第1・2扇、第3扇～6扇下段に該当する。大阪城本が左から右へ（画面向かって、以下同じ）とストーリーが展開するのに対して、岐阜歴本では右から左へと展開する。

しかし、岐阜歴本を左右反転させて両者を比較すると、前項（前編）同様全体的にはほぼ同構図といってよい。それでは細部についてみていこう。

（1）砦

賤ヶ岳砦は大阪城本も岐阜歴本も多重郭で構成され、描かれる位置も大岩山砦・岩崎山砦に比して高位（上段）である【挿図7】。また、赤白が斜めに縞となった旗、白黒縦二段や上下に日輪を並べた旗、赤地金三つ引両の旗、金環の馬標など類似点が多い。

ただし、岐阜歴本が羽柴秀吉の馬標（瓢箪形）



【挿図大－7】



【挿図岐－7】

を砦内に描くのに対して、大阪城本においては、秀吉とともに馬標も砦外に描かれている。岐阜歴本では羽柴方の人物が特定できる形で描かれていないことをふまえれば（後述）、岐阜歴本で秀吉をあえて描かず、その存在を馬標によってのみあらわすのは、合戦図屏風の注文主（あるいは作者）の意図によるものであろう。

（2）湖岸の戦い

湖岸には、羽柴秀勝（於次）勢による柴田勢追撃の様子と柴田方である原長頼等の殿の様子が描かれている。



【挿図大－8】



【挿図岐－8】

秀勝勢母衣衆【挿図8】、大阪城本では指物として月や鷹羽のようなものが描かれているが、岐阜歴本では兜の立物となっている。その他、両本とも秀勝勢は柄弦に短冊の指物が主だっている。

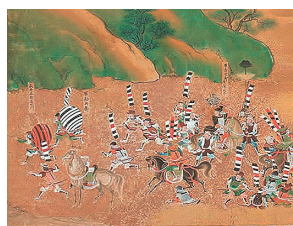
防戦する柴田勢【挿図9・10】、兜の立物や母衣



【挿図大－9】



【挿図岐－9】



【挿図大－10】



【挿図岐－10】

の文様、旗指物に類似点を見出すことができる。

(3) 七本槍の戦い

大阪城本では羽柴方の七本槍が『川角太閤記』に依拠して選定されていることが指摘されている。羽柴方・柴田方ともに指物や兜等が描きわけられ、付箋によって人物比定が可能となっている。これに対して岐阜歴本では、両七人は描きわけられているが大阪城本との類似は部分的であり、人名の記された貼紙は付されているものの、描かれた人物の同定はできない。また、羽柴方の七人について大阪城本に比して福島正則が加わり、桜井家一が脱落している。

(4) 防戦する柴田勢－柴田勝安－

七本槍の戦いののちは、小高い丘に陣取る柴田勝安（佐久間盛政弟、勝家から柴田姓を授けられた）勢が描かれている【挿図11】。

勝安自身は、大阪城本では桃形兜を着し、黒の陣羽織をまとい、赤地日丸文扇を手にする。一方、岐阜歴本では、烏帽子形とも桃形ともとれる兜と白の陣羽織を着し、金団扇を手にしている。馬標は両本ともに十字槍である。



【挿図大－11】



【挿図岐－11】

(5) 敗走する不破直光勢・徳山則秀勢

大阪城本右隻第①～③扇下段・岐阜歴本右隻第⑤～⑥扇下段には、山中を越前へと敗走する不破直光勢と徳山則秀勢が描かれている。

不破勢は斜めに引両の入った旗や柄弦に短冊の指物を持している【挿図12】。徳山勢は赤白斜め分けの旗指物が主となっており【挿図13】、大阪城本



【挿図大－12】



【挿図岐－12】



【挿図大－13】



【挿図岐－13】

岩崎山砦（岐阜歴本大岩山砦）を攻める場面とは指物の構成が異なる。

以上で岐阜歴本右隻は画面を終えているが、大阪城本右隻第1扇には、小山に留まり防戦する佐久間盛政が描かれている。岐阜歴本左隻には、敗走する柴田勢が第1扇から第6扇にかけて描かれている。

「孤本」なのか？

大阪城本左右隻と岐阜歴本右隻の比較をおこなってきた。その他、両本の相違点を述べると、大阪城本では羽柴方・柴田方ともに比定が可能な人物が多くみられるのに対して、岐阜歴本で人物比定ができるのは、先述した佐久間盛政（右隻、前編）、柴田勝安（右隻）、佐久間盛政（左隻）のみである。このことは、注文主の社会的立場の相違を反映していると考えられ、また、他に例をみない岐阜歴本左隻の存在の要因ともなっているように。

両本の相違点はみられるものの、大阪城本左右隻と岐阜歴本右隻が細部にわたって非常に類似しているのは認められる。確定はできないが、岐阜歴本が大阪城本（あるいはその粉本）を祖本としてアレンジを加えながら描かれた可能性は大いにある。

岐阜歴本左隻を描くために、岐阜歴本は大阪城本が描いた一双方の画面を無理矢理片隻に描く必要があり、賤ヶ岳砦から柴田勢敗走までを、単純に左右反転させて同隻の中に押し込めるように描いたとも解釈できるのではないだろうか。このとき、岐阜歴本右隻下部に描かれるのは、大阪城本右隻に描かれている余呉湖となる。

また、岐阜歴本の大岩山砦と岩崎山砦の位置が諸本に比して逆なのは、「高山右近城」と「中川瀬兵衛城」の付箋の貼り間違いともとれようが、撤退する高山右近勢と岐阜歴本岩崎山砦の旗旗が一致することを鑑みれば、屏風制作時点で作者（あるいは注文主）の誤解と理解しておく方が妥当であろう。しかしながら、作者は祖本の大岩山砦をみて「岩崎山砦」を描いたのであって、旗旗といった細部は描き改めたが、合戦の展開として岐阜歴本右隻に描かれているのは、絵に向かって右から大岩山砦、岩崎山砦と解釈しておきたい。

以上、雑考として推測を重ねることとなったが、賤ヶ岳合戦図に琵琶湖があらわれるという従来の画像解釈は大いに疑問であったことから、仮説として提示した次第である。

また、左隻についての解釈や、それに関連する屏風制作の背景等については十分な検討材料をもちあわせておらず、今後の課題としたい。

《参考》『館藏品図録戦国合戦図屏風』（岐阜市歴史博物館、平成20年）

***** 館 蔵 資 料 紹 介 *****

朱地桐紋付裾模様小振袖

丈155cm 衿60cm 袖丈70cm 昭和初期

この小振袖は、岐阜県安八郡神戸町の呉服屋（屋号・中増）の娘であった故・長谷光子氏（大正2年生まれ）が、昭和11年（1936）に岐阜市内へ嫁いだ際の婚礼衣裳の一つです。遺族である長谷美恵氏より寄贈を受けました。写真の朱地の小振袖のほかに白地・黒地の小振袖を用意し、頭には角隠しを被りました。生地は正絹縮緬で、三着いずれも松に牡丹、菊などをあしらった同柄の染模様を裾に入れ、朱地・黒地の小振袖は桐の紋付となっています。

光子氏は色留袖を着て実家を出た後、婚家に到着して夫婦固めの杯を交わす際に、まずは「嫁ぎ先に染まる」決意を表して家紋無しの白地の小振袖に着替えたそうです。さらに婚家と親子の杯を交わす時は「嫁ぎ先の赤子になった」意で朱地の小振袖、婚家の親戚との杯を交わす時は「嫁ぎ先の色に染まり他には染まらない」という意で黒地の小振袖に着替えました。

明治期から戦前の岐阜・愛知県では、花嫁が婚礼の様々な儀礼に応じて、家紋の有無や色の異なる婚礼衣装を着替えたという報告がいくつか残されています。本資料は、昭和初期の岐阜市周辺における婚礼の様相を伝える貴重な資料といえるでしょう。



利用の御案内

■ **開館時間** 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
10/7（土）～11/23（木・祝）は午後7時まで
（入館は午後6時30分まで）

■ **休館日** 毎週月曜日と祝日の翌日（月曜日が祝日の場合はその翌日）
臨時休館日（11月28日～11月30日）
年末年始（12月28日～1月3日）
特別展「レオナルド×ミケランジェロ展」の開催中は無休

■ **観覧料**（団体は20人以上）
歴史博物館総合展示、加藤栄三・東一記念美術館
高校生以上 300円（団体240円）
小中学生 150円（団体90円）
両館共通で観覧される場合
高校生以上 510円（団体410円）
小中学生 250円（団体150円）

◎下記の方は無料でご観覧いただけますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。

- ①岐阜市在住の70歳以上の人
- ②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の交

付を受けている人、およびその介護の方1人

③岐阜市内の小中学生

④家庭の日（毎月第3日曜日）に入館する中学生以下の人と
同伴する家族（高校生以上）の方

企画展は、総合展示料金でご覧いただけます。

特別展は、その都度料金を定めます。

■ **交通案内** JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。

岐阜公園内ロープウェー乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

博物館だより No.97 2017. 9

編集・発行 岐阜市歴史博物館

〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ☎058(265)0010

（分館）加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ☎058(264)6410